

## 家庭における幼児の童話・昔話離れ現象の実態

—1990年からの30年間の変化—

筑波大学 水野 智美  
筑波大学 徳田 克己

### I. はじめに

童話や昔話は、話の中に時代を超えて人々が経験する困難や失敗などが含まれており、それらを通して人生の規範、道徳、困難への解決法を子どもたちが学ぶことができるという意義を多くの研究者が指摘している(吉田, 2005; 福田, 2006; 北川, 2008 など)。また、童話や昔話は、これまで長く語り継がれてきた伝承文芸であり、日本文化の一部であるというとらえ方もある。しかし近年、子どもたちが童話や昔話をあまり知らないことが話題になることが多い。それだけでなく、保護者や保育者も童話・昔話を詳しく知らず、家庭で童話・昔話の絵本の読み聞かせをしたり、素話をしたりすることが少なくなり、また保育の中で童話・昔話を取り入れた活動が減少している傾向がある(水野・徳田, 2012)。

これまでに、横山・横山・徳田(1991)は、家庭での童話・昔話への関わりが徐々に変化していることを日々の保育を通して感じたことから、幼児をもつ保護者に対して家庭でどの程度、童話・昔話にふれる機会があるのか、また幼児は童話・昔話に関してどの程度の知識があるのかを調査した(1990年調査)。また、徳田(2001)は横山ら(1991)と同様の調査を行い、1990年から2000年の10年間に、童話・昔話に関して、どのような変化が起きているのかを明らかにした(2000年調査)。その結果、家庭で子どもが童話や昔話にふれる機会が大きく減り、またそれらに関する幼児の知識がとても薄くなっていることを確認し、それらの傾向を「童話・昔話離れ現象」と表現した。特に、昔から子どもに最も親しまれていた「も

もたろう」の絵本の家庭での所持率が83%(1990年)から59%(2000年)に低下したことが象徴的であった。

2010年になると、徳田(2001)が調査した時点よりも、さらに多数の創作童話が出版されるようになり、書店に置かれている絵本の中でも童話・昔話が占める割合が少なくなった。また、ゲームや幼児用玩具などが普及して、絵本以外に幼児が楽しむ材料が増えた。そのように幼児を取り巻く環境が変化する中で、1990年から2000年にかけてみられた童話・昔話離れ現象が、2000年から2010年にかけても見られるかどうかを確認するために、水野・徳田(2012)は横山ら(1991)、徳田(2001)と同様の調査を実施した(2010年調査)。その結果、①絵本の所有率は、すべての童話や昔話において1990年から2000年、2000年から2010年と10年ごとに下がっていること、②1990年から2000年までの10年間に絵本の所有率が大きく下がっているが、2000年から2010年までの減少の幅はゆるやかであったこと、③1990年では調査対象にした21の童話・昔話のうちの18話が半数以上の家庭で所有されていたのに対して、2010年では半数以上の家庭にあった童話・昔話は「ももたろう」(54%)の1話のみであること、④ビデオはどの童話・昔話についても所有率は低く、経年的な変化はほとんど見られないこと、⑤家庭で親が子どもに絵本を読み聞かせた経験のある割合は減少し続けており、半数以上の家庭で読み聞かせをされた童話・昔話は2000年では10話であったが、2010年では「ももたろう」と「浦島太郎」の2話のみであったことなど

が確認された。

2010年から2020年の10年間には、子どもの余暇時間の過ごし方やその際に用いるツールに大きな変化があった。つまりPC、スマートフォン、タブレット等の電子機器類の利用である(Nishimura & Tokuda, 2017; 徳田・西村・水野, 2020など)。子どもはこれらの電子機器から多くの情報を得ており、その中には童話・昔話に関するコンテンツも多い。動画共有サイトであるYouTubeには数多くの子どもの向けコンテンツがあり、童話や昔話に関するものも多数ある。また、タブレットなどでお話を機械が音読してくれるアプリが複数開発されている。そこで、2020年においても、これまでの3回の調査とほぼ同一の内容の調査を行い、子どもの童話・昔話離れ現象がどのように変化しているかを確認することにした。

## II. 方法

### 1. 調査対象者

愛知県、茨城県、埼玉県、東京都内にある私立の幼稚園、認定こども園等に通っている幼児642名とその保護者を調査対象とした。子どもの学年は年少187名(29%)、年中220名(34%)、年長206名(32%)、不明29名(5%)であった。

なお、横山ら(1991)が1990年に実施した調査の対象者は茨城県、神奈川県、埼玉県、千葉県、東京都に住む幼児195名(年少132名、年中28名、年長35名)とその保護者であった。また徳田(2001)が2000年に実施した調査の対象者は茨城県、千葉県、東京都に住む幼児579名(年少112名、年中202名、年長262名、不明3名)とその保護者であった。さらに水野・徳田(2012)が2010年に実施した調査の対象者は愛知県、茨城県、埼玉県に住む幼児259名(年少25名、年中84名、年長149名、不明1名)とその保護者であった。つまり、これらの4つの調査はほぼ同質の対象者であると考えることができる。

### 2. 調査項目と手続き、調査期間

調査は、自記式質問紙を用いた。調査への協力

を依頼し、協力可能と回答した幼稚園等に質問紙を渡し、担任の先生を通じて保護者に質問紙を配布した。その後、留置法により回収した。なお、調査は無記名式で行った。

調査項目は30年間の変化を調べるために、横山ら(1991)、徳田(2001)、水野・徳田(2012)とほぼ同一のものを用いた。調査項目は、①保護者が答えるもの、②保護者が質問紙に書かれている質問を子どもに尋ね、子どもの反応をそのまま記録するものの2種類であった。①、②の調査項目は以下の通りである。

①子どもと保護者の属性に関する項目5項目、家庭で所有している童話・昔話の絵本およびDVD(ビデオを含む、以下同様)に関する項目42項目、家庭で童話・昔話を読み書かせた経験に関する項目21項目、童話・昔話に関する保護者の熟知度に関する項目21項目、童話・昔話に関する子どもや保護者の関心に関する項目3項目、それに新しく加えたYouTube等での映像視聴経験に関する項目21項目の計113項目で構成された。なお、家庭で所有している童話・昔話の絵本およびDVDに関する項目、YouTube等での映像視聴経験に関する項目、家庭で童話や昔話を話した経験に関する項目、保護者の熟知度に関する項目は、次の21の童話・昔話について尋ねている。

ももたろう、おむすびころりん、おやゆび姫、ヘンゼルとグレーテル、こぶとりじいさん、さるかに合戦、はだかの王様、金のがちょう、したきりすずめ、かぐや姫、赤ずきん、白雪姫、かちかち山、一寸法師、シンデレラ、うさぎと亀、浦島太郎、花さかじいさん、ありときりぎりす、みにくいあひるの子、ながぐつをはいた猫

②「ももたろう」「浦島太郎」「うさぎと亀」「したきりすずめ」の4話に関する知識を問う項目9項目で構成された。なお、保護者には子どもが回答している途中で口をはさんだり、誤った回答に対して叱ったり、表情に出したりすることのないように指示をした。また、質問が終わった後に、これらのお話について、子どもがわからなかった点は保護者が優しく教え、できれば絵本を読み聞

かせてほしい旨を伝えた。

調査期間は2020年9～10月であった。また本調査は、筑波大学医学医療系医の倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号1606)。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. 家庭の中で童話や昔話に接する機会

21の童話・昔話の絵本を家庭で所有しているか

について尋ねた結果をFigure 1に示した。また、それらのビデオ・DVDを所有しているか、子どもに読み書かせた経験があるかについて尋ねた結果をTable 1に示した。

Figure 1より、絵本については、すべての童話・昔話において1990年から2020年の間、10年ごとに所有率が大きく低下していることがわかる。

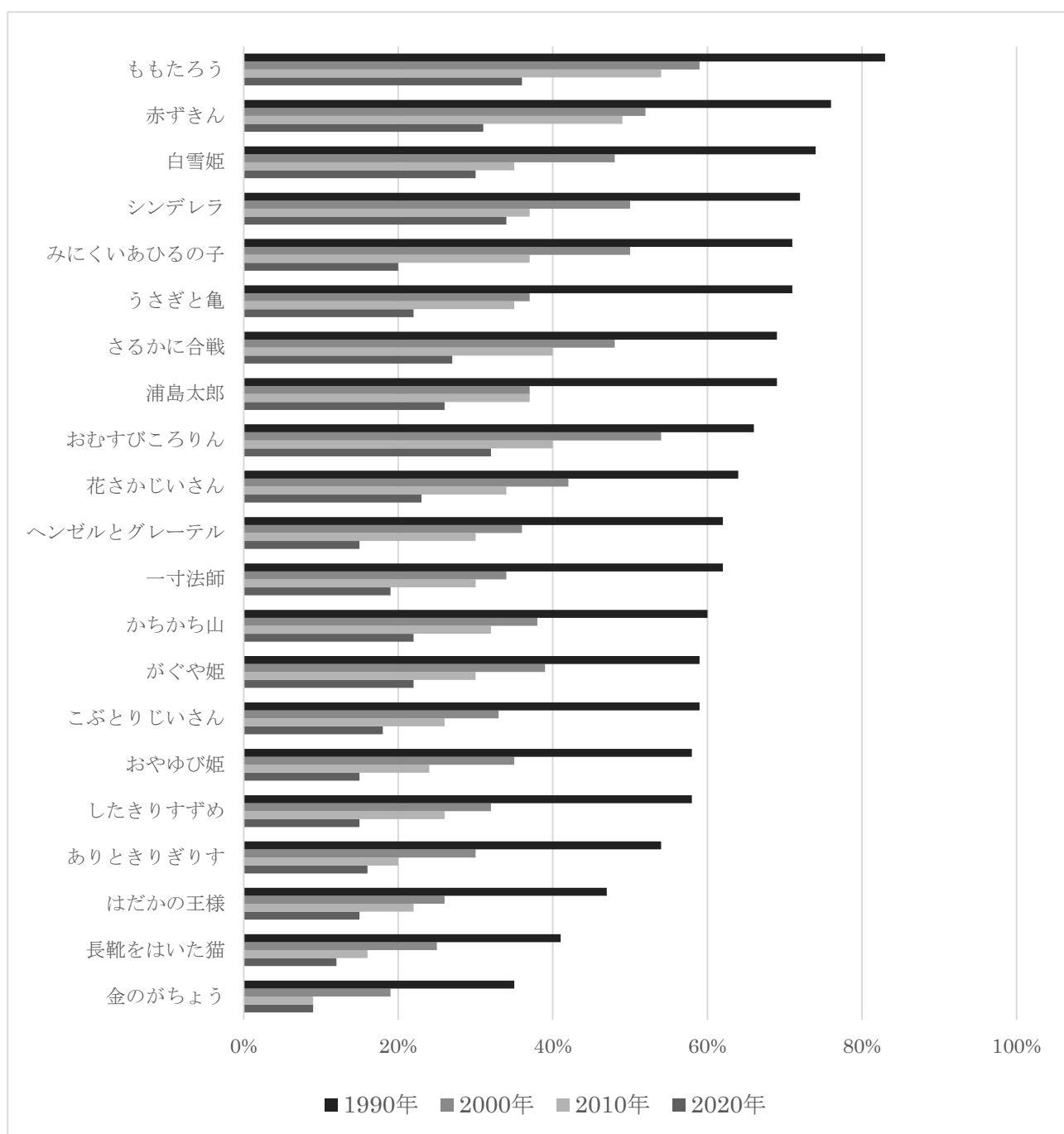


Figure 1. 家庭における童話・昔話の絵本の所有率

Table 1. 家庭におけるビデオ・DVDの所有率、YouTube等での映像視聴経験、家庭内での絵本を読み聞かせた経験の割合

	読み聞かせ経験				ビデオ, DVD				YouTube
	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年	2020年
ももたろう	90%	80%	72%	60%	9%	8%	13%	9%	20%
うさぎと亀	77%	63%	41%	36%	8%	3%	5%	5%	11%
浦島太郎	74%	58%	50%	43%	6%	6%	7%	6%	11%
赤ずきん	72%	63%	48%	51%	11%	5%	7%	7%	14%
おむすびころりん	67%	60%	36%	51%	7%	7%	5%	5%	14%
白雪姫	66%	53%	31%	43%	12%	23%	18%	20%	16%
シンデレラ	65%	55%	35%	50%	16%	14%	21%	27%	20%
みにくいあひるの子	65%	50%	32%	27%	12%	4%	5%	2%	6%
さるかに合戦	62%	51%	33%	43%	6%	5%	6%	6%	12%
花さかじいさん	61%	51%	33%	34%	5%	7%	6%	5%	8%
がぐや姫	58%	46%	27%	34%	6%	7%	4%	4%	10%
かちかち山	58%	40%	22%	29%	3%	4%	9%	6%	7%
こぶとりじいさん	58%	39%	25%	26%	9%	4%	6%	4%	5%
したきりすずめ	58%	38%	20%	19%	3%	5%	1%	4%	6%
一寸法師	57%	31%	21%	23%	5%	5%	4%	5%	5%
おやゆび姫	56%	34%	20%	20%	7%	6%	3%	2%	3%
ヘンゼルとグレーテル	54%	40%	24%	21%	7%	2%	4%	2%	6%
ありときりぎりす	49%	35%	20%	24%	4%	1%	2%	3%	6%
はだかの王様	46%	33%	19%	21%	6%	3%	3%	1%	4%
長靴をはいた猫	39%	21%	8%	16%	5%	4%	2%	3%	5%
金のがちょう	24%	18%	5%	9%	2%	0	1%	1%	1%

特に、2010年から2020年にかけては、過去の調査において調べた21の童話・昔話の中で、毎回、所有率の比較的高かった「ももたろう（54%→36%）」「赤ずきん（49%→31%）」「さるかに合戦（40%→27%）」「みにくいあひるの子（37%→20%）」などの減少が著しかった。1990年には所有率83%と、多くの家庭にあり、しかも数種類の絵本がある家庭も珍しくなかった「ももたろう」が、2020年には36%の家庭にしか絵本がなかった。2020年では所有率が40%を超えている絵本は皆無であり（2010年では4話、2000年では8話、1990年では20

話）、この30年間で童話・昔話の絵本が子どものいる家庭から姿を消しつつあることが確認できた。

DVDはどの童話・昔話についても所有率はそれほど高くなく、経年的な変化はほとんど見られなかった。童話や昔話の絵本の所有率が低くなった理由の一つに、童話や昔話を収録したDVDを所有する家庭が増えているのではないかと推測していたが、その考えはあてはまらなかった。最近では、多くの家庭で幼児向けのDVDを子どもに与えている（水野・徳田, 2008）が、その中には童話や昔話を扱う作品がそれほど含まれてい

ないようである。

ただし、「シンデレラ」と「白雪姫」のDVDの所有率は他の童話・昔話に比べて高かった。母親は自分の好きなキャラクターを子どもに与えたいと考える傾向がある (Mizuno, Nishidate, Matsushita, Cho & Tokuda, 2010) ため、母親が好きな童話・昔話の上位に挙げられている「シンデレラ」や「白雪姫」を子どもにも見せていると思われる (星野・横山・横山・横山・徳田, 1998)。また、これらの話に関してはディズニー社がDVDを制作しており、ディズニー社の作品を好む母親の影響を受けていると推察される。さらに 2005 年以降、白雪姫とシンデレラを含んだディズニープリンセスというブランドが広まり、それに関連するDVD、洋服、玩具等が販売されている。つまり子どもが日常の中で、白雪姫やシンデレラを目にする機会が多くあり、ファミリーリティが上がっているのである。よく知っているキャラクターの話やDVDや映像でも見たいという子どもが多く、他の童話・昔話よりもDVDの所有率が高いと推察される。

YouTube 等での映像視聴経験においても白雪姫とシンデレラは高い数値であった。しかし、この映像視聴経験についてはもう一つの特徴があった。「ももたろう」「おむすびころりん」「さるかに合戦」「うさぎと亀」「浦島太郎」「かぐや姫」などの、有名な日本の昔話の視聴経験も10%を超えているのである。つまり、絵本を持っていない子どもであっても、映像を見ることによって、童話・昔話の視覚的理解をしている子どもが存在していることが示唆されるのである。この点については絵本の所持の有無、ビデオ・DVDの所持の有無、YouTube 等での視聴経験を要因にした分析を行い、今後、詳細に検討したい。

Table 1 に示した家庭内で絵本を読み聞かせた経験がある保護者の割合は非常に重要な数値である。多くの研究者が子どもに対する絵本の読み聞かせの意義を報告している (磯野, 2015; 堂野 2008 など)。今回の結果では、家庭の中で絵本を読み聞かせた経験のある割合は、調査対象とした

21 の童話・昔話について 30 年前の 1990 年よりも 2020 年の方が減少していることがわかる。しかし、2020 年と 10 年前の 2010 年を比べると、割合が増えているお話が 21 話の中に 14 話もあった。増加率が高かったのはディズニー関連の「シンデレラ(35%→50%)」「白雪姫(31%→43%)」であり、親子の興味が高いものが読み聞かせをされている。一方で「ももたろう(60%)」「あかずきん(51%)」「おむすびころりん(51%)」「赤ずきん(51%)」も半数以上の家庭で読み聞かせの経験があることがわかった。

## 2. 童話や昔話に関する幼児の知識

### (1) ももたろう

「ももたろうが生まれてきたももをだれが拾ってきたか」「ももたろうが鬼たいじに行く時に腰につけていた物は何か」「ももたろうと一緒に鬼退治に行ったのは誰か」の正解率を Table 2 に、誤答例を Table 3、Table 4、Table 5 に示した。なお、誤答例については 1990 年の結果では分析されていないため、2000 年以降を比較する。

Table 2 より、「ももたろう」が生まれてきたももを拾ってきた人の正解率については、年長児では 1990 年から 2020 年の 30 年間でほとんど変化がなかった。また、年少、年中児は 1990 年から 2000 年の 10 年間で大きく低下したが、2010 年から 2020 年の間にやや増加した。Table 3 の誤答を見ると、誤答の内容にはあまり変化がなく、「おじいさん」あるいは「おじいさんとおばあさん」と答える子どもが目立った。

「ももたろう」が鬼退治に行く時に腰につけていた物の正解率については、すべての学年の子どもにおいて 1990 年から 2000 年の 10 年間で急激に低下し、2000 年と 2010 年ではほとんど変わりがなかったが、2020 年ではいずれの学年も正解率が上昇した。Table 5 の誤答を見ると、単に「だんご」と答えている子どもが多かった。また、だんごであることはわかっているが、何のだんごであるかを思い出せなかったり(「なんとかだんご」「き?だんご」)、ももたろうに出てくる物と合

体した造語を発したり（「おにだんご」「ももだんご」）、きびだんごの音を間違えて覚えている（「きみだんご」「ちみだんご」）ケースがみられた。2020年においては、2010年にみられた「カレー、シチュー、ケーキ」などの洋風の食べ物を挙げる子どもはいなかった。

「ももたろう」と一緒に鬼退治に行った者の正解率については、年少児は1990年から2000年にかけて大きく低下した後、2020年までほぼ変化はなかった。年中児、年長児においては1990年から2010年にかけて経年的に正解率が低下した

が、2010年から2020年にかけて、年中、年長児において増加した。特に、年中児では、1990年と変わらない程度まで上昇した。なお、これまでの調査と同様に、「犬、サル、とり」と答えた場合も正解にしたが、「犬、サル、キジ」と答えられた子どもは、年少児13%、年中児34%、年長児40%であった。Table 6の誤答を見てみると、2000年、2010年と同様、「キジ」がわからずに、「キツツキ」や「カラス」「スズメ」「タカ」「ツル」などのとりの名前が答えられていた。年長児では、「キジ」という名前は出てこないが、「カ

Table 2. 「ももたろう」に関する知識問題の正解率

	年少				年中				年長			
	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年
ももを拾った人	72%	44%	44%	50%	82%	69%	67%	74%	86%	84%	85%	88%
腰につけて いった物	76%	20%	22%	27%	68%	36%	31%	51%	91%	47%	51%	66%
鬼退治に 行った者	49%	18%	22%	23%	50%	37%	28%	46%	89%	55%	50%	57%

Table 3. 「ももを拾った人」の誤答例（ ）内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*ももたろう (4) *おじいさん (3) *おかあさん (2)	*パパ (1) *あかちゃん (1) *おばちゃん (1)	*おじいさんとおばあさん (7) *おじいさん (4) *レスキュー隊 (1)
年中児	*おじいさんとおばあさん (12) *ももたろう (3) *おかあさん (2)	*おじいさん (4) *ももたろう (1) *うさぎ (1)	*おじいさん (8) *おじいさんとおばあさん (7) *一寸法師 (1)
年長児	*おじいさん (12) *おじいさんとおばあさん (3)	*おじいさん (4) *ももたろう (2) *ママ (1) *鬼 (1)	*おじいさん (4) *おじいさんとおばあさん (2) *おじいさんかおばあさん (1) *かぐや姫 (1)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

Table 4. 「腰につけていった物」の誤答例 ( ) 内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*だんご (16) *もも (10) *おにぎり (3)	*だんご (6) *もも (2) *パン (1)	*だんご (25) *もも (20) *おにぎり (5) *りんご (3) *きみだんご (3)、ちみだんご (1)、おにだんご (1)、黄色いだんご (1)、どろだんご (1)
年中児	*だんご (35) *もも (19) *おにぎり (7) *もち (6)	*もも (12) *だんご (11) *ミニだんご、ちびだんご、肉だんご、きみだんご、みみだんご(各1) *パン (1) *ケーキ (1)	*だんご (16) *もも (13) *おにぎり (8) *もち (7)、きびもち (1) *きみだんご (4)、ももだんご (2)、き?だんご (1)、肉団子 (1)
年長児	*だんご (34) *もも (12) *きみだんご (11) *おにぎり (6) *もち (4) *ももだんご (4)	*だんご (32) *もも (5) *おにぎり (4) *きみだんご (3) *もち (2) *肉だんご (1) *カレー、シチュー (各1)	*だんご (25) *おにぎり (5) *きみだんご (5)、ももだんご (1)、なんとかだんご (1)、みたらし団子 (1) *丸いもの (2) *もも (2)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

ラフルなとり」「ケーンと鳴くとり」と答えるなど、視覚的あるいは聴覚的に覚えていたことを答える子どもがいた。キジは、日常的にテレビなどで目にする機会が少なく、子どもにとっては馴染みのない言葉であるが、絵本や映像等で視覚的に印象に残ったのであろう。また、2010年では「アンパンマン」と答える子どもが少数いたが、今回、このように答えた子どもは一人もいなかった。2010年の調査をする前に、アンパンマン扮する桃太郎が鬼退治に行く子ども用の絵本が販売されていたことがその背景にあったと思われる(今は販売されていない)。なお、テレビCMで桃太郎が浦島太郎と金太郎とともに鬼退治に行く場面が放映されたが、それに影響を受けた回答はなかった。

## (2) 浦島太郎

「浦島太郎は誰の背中に乗って竜宮城に行ったか」「浦島太郎が乙姫様からもらった玉手箱を開けたら、どうなったか」の正解率を Table 6 に、それぞれの誤答例を Table 7、Table 8 に示した。誰の背中に乗って竜宮城に行ったかを尋ねた結果 (Table 6) を見ると、すべての学年で 1990 年から 2000 年には正解率が急激に低下したが、2000 年以降、徐々に増加していた。「誰の背中に乗ったか」について、Table 8 の誤答例をみると、年少児は海とは関係のない動物(サル、くま、犬、馬)を挙げる子どもが目立ったが、年中、年長児はくじら、タコ、さかなといった海にいる生物を回答していた。ただし、ももたろうの背中、お椀

Table 5. 「鬼退治に行った者」の誤答例 ( ) 内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*おじいさん (7) *犬とサル (5)	*犬とサル (1) *ばあば (1) *アンパンマン (1)	*犬とサルと～ (10) (～にはおに、キリン、ねこ) *さると～ (10) (キツネ、ネコ、おおかみ)
年中児	*犬とサル (11) *おじいさんとおばあさん (7) *おじいさん (4)	*犬とサルと～ (7) (～にはキツツキ、スズメ) *犬とサル (4) *おばあさん (3) *おじいさんとおばあさん (1) *アンパンマン (1)	*犬とサルと～ (12) (キツツキ、カラス、ことり、スズメ、カンガルー) *サルと～ (16) (くま、しか) *かぐや姫 (1) *おじいさんとおばあさん (1)
年長児	*犬とサル (11) *犬とサルと～ (12) (ニワトリ、からす、クジャク、スズメ) *おじいさん (4)	*犬とサルと～ (9) (キツツキ、ハト、ツル) *犬とサル (3) *おばあさん (3)	*犬とサルと～ (17) (カラフルなとり、ケーンと鳴くとり、口が長いとり、たか、つる) *サルと～ (10) *おじいさん (2)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

(一寸法師) と答えた子どもがおり、他の昔話と混同していると思われる回答があった。

「玉手箱を開けたらどうなったか」の正解率についても、すべての学年で1990年から2000年には急激に低下したが、その後、経年的に高くなった。Table 9の誤答例をみると、「おじいさんになった」ことまでは言及できなくても、その途中の「ひげがはえた」「煙が出た」と答えた子どもがいた。絵本や動画等で、視覚的に玉手箱が開けられた状態を見て覚えていたが、それがどのような意味なのかを理解していなかったと思われる。また、「大きくなった」「ねずこ(箱から飛び出す設定の登場人物の名前)が出てきた」など、調査時点で流行しているアニメ(『鬼滅の刃』)に影響を受けたと思われる回答をした子どもがいた。また、2010年と同様に、「宝が出てきた」「お金が出てきた」など、他の童話・昔話のスト

ーリーと混同している回答も目立った。

### (3) うさぎと亀

「うさぎと亀の競争で、勝ったのはどちらか」の正解率をTable 9に、「なぜ足の遅い亀がうさぎに勝てたのか」の誤答例をTable 10に示した。

「勝ったのはどちらか」の正解率については、1990年から2000年にかけてはどの学年も低下するが、その後は年少児は減少が続き、年中、年長児は増減を繰り返し、共通した動きはなかった。

Table 10の「なぜ足の遅い亀が勝ったのか」の誤答をみると、2010年と同様に、2020年にも年中、年長児の回答に「うさぎがニンジンを食べていたから」「ニンジンのところに行ったから」という回答が目立った。絵本または映像を見た子どもは「うさぎがニンジンを食べていた」ことを視覚的に記憶し、「油断して寝ていた」という理由



Table 6. 「浦島太郎」に関する知識問題の正解率

	年少				年中				年長			
	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年
誰の背中に乗ったか	62%	17%	30%	32%	75%	35%	44%	52%	89%	50%	65%	68%
玉手箱を開けたらどうなったか	54%	14%	26%	28%	82%	29%	37%	47%	94%	50%	65%	68%

Table 7. 「誰の背中に乗ったか」の誤答例 ( ) 内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	* 亀以外の動物 (20) * 船 (10)	* さる (1) * 犬 (1) * アンパンマン (1)	* 亀以外の動物 (サル、くま、犬、馬) (12) * 人 (おじいさん、おばあさん、パパ) (14) * 船 (2) * ももたろう (2)
年中児	* 亀以外の動物 (20) * 船 (18)	* 船 (5) * おばあさん (3) * くじら (1) * リンゴ (1)	* 亀以外の動物 (くじら、たこ、くま、サル) (12) * 船 (5) * ももたろう (2)
年長児	* 亀以外の動物 (20) * 船 (9)	* 船 (4) * 鳥 (4) * おじいさん (1) * ペンギン (1)	* 亀以外の動物 (さかな、とり、サル、くま) (6) * 船 (6) * お椀 (2)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

まで覚えていなかったと思われる。同様に、「途中で止まったから」と答えた子どももいたが、「寝ていた」ことまでは言及されていなかった。

#### (4) したきりすずめ

「すずめはどうしておばあさんに舌をちょんぎられてしまったのか」「すずめのおうちに行ったおじいさんは大きい方のお土産をもらったか、小さい方のお土産をもらったか」「おばあさんが持

って帰った大きい方のお土産の中身は何だったか」の正解率を Table 11 に、すずめが舌を切られた理由の誤答例を Table 12 に、おばあさんがもらったお土産の中身の誤答例を Table 13 に示した。

「すずめはなぜ舌を切られたか」の正解率については、2020年ほどの学年も2010年よりは多少の増加がみられるものの、低い正解率であった。また、「おじいさんのお土産は大きいか小さいか」

Table 8. 「玉手箱を開けたらどうなったか」の誤答例 ( ) 内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*おばけが出た (3) *煙が出た (2)	*ぐにゃぐにゃになった (1) *死んだ (1)	*おにが出てきた (5) *お金が出てきた (2) *ひげがはえた (2) *ももたろうが入っていた (2)
年中児	*煙が出た (6) *おばけが出た (5)	*宝が出てきた (1) *お菓子が出てきた (1) *お金が出てきた (1) *赤ちゃんが入っていた (1)	*お金が出てきた (6) *煙が出た (3) *ひげがはえた (4) *宝が出てきた (2) *おにが出てきた (2)
年長児	*煙が出た (3)	*宝が出てきた (5) *お金が出てきた (5) *おばけが出てきた (1) *王子様になってお姫様と結ばれた (1) *お姫様が出てきた (1)	*宝が出てきた (3) *大きくなった (3) *煙が出た (3) *ひげがはえた (2) *ねずこが飛び出してきた (1)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

Table 9. 「うさぎと亀」に関する知識問題の正解率

	年少				年中				年長			
	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年
勝ったのはどちらか	66%	55%	52%	38%	79%	59%	46%	53%	94%	67%	75%	69%

についての正解率は、年少児は経年的に低くなっていた。年中児、年長児については、2010年から2020年にやや増加しているが、1990年と比べると低い。

すずめが舌を切られた理由の誤答例 (Table 12) をみると、2000年も2010年も、「悪いことをしたから」「ごはん、おもちなどを食べたから」の回答が目立った。「ごはん、おもちなどを食べたから」と答えた子どもの中には、「ご飯の材料を

食べた」「お米でできたものを食べた」「何か白い物を食べた」と答えるなど、「洗濯のり」という言葉を覚えられなかったが、大人から洗濯のりとは何かを教えられたり、絵本や映像で見たりした記憶をもとに答えていると思われるケースが目立った。

「おばあさんのお土産の中身は何か」の正解率についても、年少児は年々、正解率が減少していた。また、年中、年長児においても2000年以降

Table 10. 「なぜ足の遅い亀がうさぎに勝てたのか」の誤答例 ( )内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*亀が強いから (3)	*うさぎがピョンピョンしていたから (1) *亀が強かったから (1)	*亀が強いから (4) *亀が頑張ったから (2)
年中児	*亀が頑張ったから (6) *亀が強いから (2)	*亀が頑張ったから (2) *亀の足が大きいから (1) *亀がまじめだから (1)	*うさぎは跳ねるから (5) *亀が強いから (4) *亀が頑張ったから (4) *うさぎがニンジンのところへ行ったから (1)
年長児	*亀が頑張ったから (3)	*うさぎがニンジンを食べていたから (2) *亀が頑張ったから (2) *うさぎが転んだから (1) *亀が走ったから (1)	*うさぎがニンジンを食べていたから (2) *うさぎがニンジンのところへ行ったから (2) *うさぎが途中で止まったから (2)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

Table 11. 「したきりすずめ」に関する知識問題の正解率

	年少				年中				年長			
	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年	1990年	2000年	2010年	2020年
なぜ舌を切られたか	20%	7%	4%	6%	54%	10%	3%	12%	66%	17%	16%	22%
おじいさんのお土産は大きいか小さいか	42%	30%	46%	21%	71%	39%	25%	36%	86%	50%	45%	50%
おばあさんのお土産の中身は何か	36%	15%	23%	12%	57%	21%	20%	24%	89%	37%	44%	37%

の正解率はそれほど変わらなかった。

おばあさんがもらったお土産の中身の誤答については、「宝物・金貨」「お菓子やおもちなどの食べ物」を挙げた子どもが年少、年中児に目立ったが、年長児になると減った。一方、年少児に比べて年中、年長児になると、正答の「怪物やお

化け」を答えず、「虫やへび」といった恐怖を感じるものを挙げる子どもが増えた。この結果も、絵本や動画などで視覚的に見て、お化けとともに虫やへびなどが登場していたことを記憶していたことに影響を受けていると思われる。

Table 12. 「なぜ舌を切られたか」の誤答例 ( )内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*悪いことをしたから (9)	*ごはんを食べたから (1) *悪いことをしたから (1)	*悪いことをしたから (7) *ごはん、おもちなどを食べたから (4)
年中児	*悪いことをしたから (23) *ごはん、おもちなどを食べたから (8)	*悪いことをしたから (6) *ごはん、おもちなどを食べたから (5) *うるさいから (1)	*悪いことをしたから (14) *ごはん、おもちなどを食べたから (13)
年長児	*悪いことをしたから (27) *ごはん、おもちなどを食べたから (21)	*ごはん、おもちなどを食べたから (19) *悪いことをしたから (12) *うるさいから (1)	*ごはん、おもちなどを食べたから (17) *悪いことをしたから (10)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

Table 13. 「おばあさんのお土産の中身は何か」の誤答例 ( )内は頻度

	2000年	2010年	2020年
年少児	*お菓子、モチなどの食べ物 (16)	*おまんじゅう (1) *ケーキ (1) *モモ (1) *お菓子 (1)	*宝物・金貨 (10) *お菓子、おもちなどの食べ物 (10) *おもちゃ・ぬいぐるみ (3) *虫やへび (2)
年中児	*お菓子、モチなどの食べ物 (16) *お金 (5)	*お菓子 (3) *お金 (3) *宝物 (2) *おもちゃ (2) *チョコ (1)	*宝物・金貨 (14) *お菓子、おもちなどの食べ物 (13) *虫やへび (7) *おもちゃ・ぬいぐるみ (2)
年長児	*お菓子、モチなどの食べ物 (12) *お金 (8) *宝物 (5)	*お金 (3) *おまんじゅう (2) *ケーキ (1) *宝物 (2) *石ころ (1) *包丁 (1)	*虫やへび (7) *宝物・金貨 (7) *お菓子、おもちなどの食べ物 (4) *おもちゃ・ぬいぐるみ (1)

2000年：年少児  $n=112$ 、年中児  $n=202$ 、年長児  $n=262$

2010年：年少児  $n=25$ 、年中児  $n=84$ 、年長児  $n=149$

2020年：年少児  $n=187$ 、年中児  $n=220$ 、年長児  $n=206$

#### IV. 総合考察

童話・昔話の紙の絵本の所有率は大きく減少していたが、読み聞かせをしていた割合は2010年に比べて多くのお話において増加していた。家庭で絵本を購入しなくても、地域の図書館や子育て支援施設、幼稚園等で絵本を閲覧したり、貸出を受けたりしている家庭が多いことが影響していると思われる。また、タブレットの子ども向けアプリが充実したことから、電子絵本を用いて読み聞かせをしている保護者もいたと思われる。このように、絵本を所有していなくても、子どもは童話や昔話にふれる機会が広がったと言える。さらに、本調査は新型コロナウイルスの感染が拡大した時期に行われたために親子が自宅で過ごす時間が増えたことも、読み聞かせの割合が増えた背景にあると考えられる。

ただし、昔話に関する子どもの知識を尋ねた結果を見ると、視覚あるいは聴覚的な情報は覚えているが、正確な言葉を覚えていないケース（たとえば、キジという名前は出てこないが、「カラフルなとり」「ケーンと鳴くとり」と答えるなど）、状況の一部分を視覚的な動きとして記憶していてもそれが何を意味しているのかを理解していないケース（たとえば、玉手箱を開けた結果、「ひげがはえた」「煙が出た」と答えるなど）が散見された。この背景には、動画による影響があることが考えられる。なぜならば、読み聞かせでは、子どもと大人の双方向のやり取りがあるが、動画にはない。つまり、読み聞かせの場面では、子どもはわからない言葉を大人に聞いたり、逆に大人が子どもに説明を加えたりする。また、大人は子どもの表情を見ながら、子どもが内容を理解していないようであれば、状況の説明を加えたりする。今回の調査において、視覚あるいは聴覚による記憶はあっても、正確な理解につながっていない子どもがいたことは、このような大人とのやり取りが減り、受動的に映像を見ていたのではないかとと思われる。

子どもが童話・昔話を知っておくべきであるのかについては議論があるところではあるが、日常

のテレビ番組やコマーシャルのなかで、パロディ化された童話・昔話を頻繁に目にするようになってきている。子ども向けアニメ番組の中にも童話・昔話を取り上げられている(例えば、「ちびまる子ちゃんにおける昔話シリーズ（まる子の桃太郎、まる子のおむすびころりんなど）」「アンパンマンおもちゃアニメ日本昔ばなし 桃太郎」など)。パロディを楽しむためには、そのお話に対するファミリーリティがあり、知識が必要になることは間違いない。

家庭にある絵本の所持率だけをみると、この30年間で急激な「童話・昔話離れ現象」が進んでいるようにも見られるが、特に2010年から2020年の10年間を見る限り、子どもが絵本に触れる機会が多様化していること、絵本だけではなく様々なツールを用いて童話・昔話と接していること、保護者が子どもに読み聞かせをする割合が大きく低下しているわけではないことなどのことから、この10年間で「童話・昔話離れ現象」が大きく進んだとは言えないと考えられる。

今後は、紙の絵本だけでなく、YouTube、パソコン、タブレットなどの動画を含めて、子どもは童話・昔話にどのようにふれているのかを詳細に調べるとともに、童話・昔話の知識にそれらがどう影響しているのかを分析していきたい。

#### 文献

- 土橋寿 (2006) 変容する子どもの読み物：メルヘンの崩壊と子育ての危機, 帝京学園短大研究紀要, 14, 15-26.
- 堂野恵子 (2008) 絵本の読み聞かせが幼児の講社会性の発達に及ぼす影響, 安田女子大学紀要, 36, 81-91.
- 福田幸子 (2006) 昔話の世界, 保育実践研究, 7, 11-20.
- 原口なおみ (2002) 昔話を語ることの意味, 茨城キリスト教大学紀要, 36, 1-15.
- 星野ハナ・横山範子・横山さやか・横山知弘・徳田克己 (1998) 家庭における幼児と絵本のかかわりの実態Ⅱ—子どもの好きな童話・昔話、母親

- の熟知度などについて日本保育学会第 51 回大会研究論文集, 772-773
- 北川喜美子 (2008) 昔話と幼児教育 (その 2), 京都文教短期大学紀要, 47, 97-106.
- 磯野久美子 (2015) 幼児期の読み聞かせによる絵本体験の持つ意味, 幼年児童教育研究, 27, 25-33.
- MIZUNO T. (2017) The Recognition Level of Nursery Teachers for Children's Songs and Other Songs and How They Implement Them in Childcare Activities, *The Asian Journal of Child Care*, 8, 25-33.
- MIZUNO T., NISHIDATE A., MATSUSHITA N., CHO H. & TOKUDA K. (2010) Image of characters as perceived by child-care providers, *The Asian Journal of Child Care*, 1, 17-24.
- 水野智美・徳田克己 (2008) 幼児がもつポケットの数ー誕生日とクリスマスに子どもがもらったプレゼントの数と内容ー, 日本保育学会第 61 回大会研究論文集, 781.
- 水野智美・徳田克己 (2012) 家庭における幼児の童話・昔話離れ現象の実態ー20 年間の変化を追う視点からー, *The Asian Journal of Child Care*, 3, 81-93.
- NISHIMURA M. & TOKUDA K. (2017) How Guardians Take Care of Their Children in a Train, *The 9th Asian Society of Child Care*, 81-83.
- 徳田克己 (2001) 家庭における童話・昔話とのかかわりー幼児の「童話・昔離れ現象」を中心にー, 読書科学, 45 (2), 68-76.
- 徳田克己・水野智美 (2011) 子どもと童話・昔話の絵本のかかわりー幼稚園・保育所における実態ー, 第 14 回絵本学会大会発表論文集.
- 横山さつき・横山範子・徳田克己 (1991) 幼児と童話・昔話とのかかわりーかかわりの実態とももたろう、浦島太郎のお話の理解ー, 日本読書学会第 35 回大会発表資料集, 6-12.
- 吉田照子 (2005) 物語絵本の心, 福岡女子短期大学紀要, 65, 17-32.

# The Phenomenon of Children's Separation from Fairy Tales and Folktales at Home

- From the Perspective of Changes during 30 years -

The purpose of this research is to clarify the transition of the children's knowledge of fairy tales and folktales and the involvement of the family in 2010 through comparing the results of the study conducted in 1990 and 2000.

The research subjects for this study were 259 kindergarten students and their parents.

The results of this research verified the following.

- \* During the 10 years from 1990 to 2000, the interest of kindergarten students toward fairy tales and folktales declined dramatically, and during the 10 years from 2000 to 2010, the interest of 1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> year kindergarten students declined even more.
- \* The mothers knowledge of fairy tales and folktales did not change in 20 years from 1990. However, the occasions of telling their children the stories show decline over time from 1990 to 2000, and 2000 to 2010.
- \* Many of the wrong answers about fairy tales and folktales from the kindergarten students were that they remember similar sounds or sounds they know instead of the correct sounds.
- \* Although there are a few, but some of them thought that popular cartoon characters are also in fairy tales and folktales.